

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	8 月	9 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	明槻	石井	久門	橋詰	

文化財名	多武峯町石(とうのみねちょういし)				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ( )
指定年月日	1960年(昭和35)3月30日				
所在地	桜井市(上之宮・浅古下・倉橋・北音羽・下居・南音羽・百市・八井内・多武峰)				
所有者 管理者	談山神社				
員数	31基				
時代区分	現在の町石は1654年(承応3)の制作				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	一の鳥居横にある初町石の脇に有り(桜井市教委の設置)				
公開	自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ( )				
当面の課題	上之宮から多武峰の旧街道筋に現在31基が路傍に置かれている。現存のものにも多く欠損が見られる。談山神社への参道を歩いて登る人は少ないが、路脇にひっそりと建っているが現状維持を見守るしかない。				
今後の課題	長年の風化とともに現在この町石の文字を読み取ることは不可能に近いが、このままの状態では維持管理をしなければいけない。				
その他 (由緒など)	「多武峯の町石(現況報告)」として野尻忠氏が詳細に調べて『鹿園雑集』7(2005年)に掲載されている。元は山腹から談山神社境内地まで約6キロの道のりには等間隔に52基の町石が設置されていた。町石とは社寺の参詣路に1町ごとに置かれた石製卒塔婆のこと。				
コメント	説明板には談山神社の一ノ鳥居から摩尼輪塔の5.56kmの間に参道に沿って252基が置かれ、町石の形式は板碑状で、高さ150cm、幅33cmである。仏教では菩薩が悟りに達するのに52の段階があるとされ、談山神社の町石はそれになぞえられて52基それぞれに菩薩の階が刻まれている。江戸初期1654年(承応3)10月16日に多武峯の中之坊裕英法眼が施主となって造立した。一度ゆっくりと数を確認しながら歩いてみるのもいいかも。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	8月	9日	記入者	橋詰輝己
調査者名	明槻	石井	久門	橋詰	

文化財名	多武峯町石(とうのみねちょういし)
------	-------------------

一ノ鳥居の左下に一基が置かれている



談山神社多武峯町石説明板



町石の高さは150cm・幅33cm頭部は三角の形状



旧街道の路傍に置かれている



第42番目の町石だが板碑状が割れている



第52番目の町石の傍に建つ摩尼輪塔(国指定重文)

